



崎津集落

禁教期に仏教、神道、キリスト教が共存しながら信仰を続けた漁村。現在も集落のシンボルとして建つ崎津教会のすぐ近くに地域の氏神である崎津諏訪神社がある

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産を訪ねて
密かな信仰の証
.....
4 天草の崎津集落
(熊本県天草市)

漁村独特の信仰を育んだ集落

熊本県天草市南西部にある崎津集落は、キリスト教伝来期に布教の拠点となった場所。しかし、禁教期の幕府による厳しい弾圧の中、表向きは仏教徒となり神社の氏子にもなって信仰を装い、洗礼やオラショを伝承する潜伏キリシタンの集落となりました。

当時、崎津の潜伏キリシタンの信心具はメダイやロザリオのほか、十字架や聖母マリアに見立てたアワビなどの貝殻や鏡でした。また、信仰を疑われて役人に取り調べを受けた際の記録には、崎津諏訪神社に参拝し、「あんめんりゆす＝アーメンデウス」と唱えていたとあります。

禁教令が解かれると、崎津の潜伏キリシタンの多くはカトリックに復帰。1934年に建てられた崎津教会は、禁教期に絵踏みが行われた庄屋の跡地に建てられ、踏絵を踏んだ場所に祭壇が置かれたとされています。



崎津諏訪神社

島原・天草一揆後の1647年に建てられたと言われている。崎津集落の約70%が潜伏キリシタンと発覚した1805年の「天草崩れ」の舞台となり、所有していた信心具を差し出すよう指定された場所

県では、皆さんからの寄附をもとに構成資産の修復や耐震対策などの事業を行います。ご協力をよろしくお願いします。

長崎県 構成資産へ寄附 検索

問合せ 県の世界遺産登録推進課 ☎095-894-3171 長崎から世界遺産を 検索